

# 知的資産を生かして商機

企業間取引を行うメーカーの中堅研究者・技術者から、社長直轄で新しいことをやれと指示されたが、何をしたらいいのかわからない」という相談を寄せられることが多い。上層部はイノベーション(技術革新)を通じて新商品・新サービスを求めている。一方、技術者・研究者はこれまで発注企業の要望に応えることが課題だったため、丸投げされ、困窮してしまってきた。イノベーションは容易に起こせるものではない。新事業の「芽」を見つけたとしても「3年で売り上げ100億円いけるのか」という役員言葉でついでにケースは多い。既存の事業を成長させて役員に昇格した人の多くは「ネガティブポイント」を徹底して潰す」という考え方を持つ。その指摘自体は正しくても、新事業の生み出しを阻害しかね

ビジネスリノベーション・西村佳隆社長

## 中堅・中小の現場から

### 技術革新の前に価値を再定義



(総合)

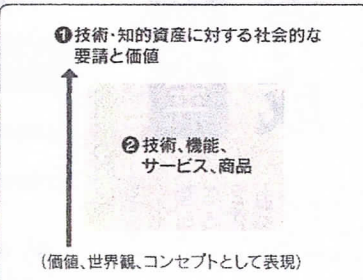
「ビジネスチャンスを創造する」というのが、技術革新の現場から聞こえてくる声だ。その中で重要なのが、価値の再定義。価値とは、顧客が支払う対価と、企業が提供する価値との差を指す。価値を再定義するには、技術革新だけでなく、経営戦略、組織文化、人材育成など、さまざまな要素を総合的に考える必要がある。特に、技術革新の現場からは、技術者の役割や価値の再定義が求められる。技術者は、単に技術を磨くだけでなく、技術の価値を伝える能力を身につける必要がある。また、経営者も、技術革新の現場から学ぶ必要がある。経営者は、技術革新の現場から、新しい価値を見出すことができる。価値を再定義することで、企業は競争優位性を築き、持続可能な成長を実現することができる。

《会社概要》

- ▽本社 東京都港区
- ▽事業概要 既存事業の再活性化、新規事業立ち上げの支援
- ▽設立 2015年10月
- ▽連携パートナー 4人(案件ごとに増員)
- ▽売上高 非公表

#### ビジネスリノベーションの概念図

②で考えがちなが、①の大きな視点からのアプローチで新たな価値を生む



次に用途開発では、電力を電波に乗せて送る無線給電技術が期待できる。無線給電技術は、従来の有線給電とは異なり、電線を介さずに電力を送ることができる。これは、充電の煩わしさを解消し、製品の寿命を延ばすことができる。また、無線給電技術は、医療分野でも応用されている。例えば、体内に埋め込まれた人工臓器に電力を送ることで、手術を減らすことができる。無線給電技術は、さまざまな分野で応用が期待されている。技術革新の現場からは、無線給電技術の活用が求められる。無線給電技術の活用によって、製品の新規開発が可能になる。無線給電技術の活用によって、製品の価値が向上する。無線給電技術の活用によって、製品の競争優位性を築くことができる。無線給電技術の活用によって、製品の持続可能な成長を実現することができる。

# NIKKEI BUSINESS DAILY

## 日経産業新聞

2023年(令和5年)  
5月11日 木曜日